



第98号

主な内容

一般質問(2名).....	2~4
可決された議案など	5
決 議	6
あの質問どうなった	7

町の人口	平成20年1月1日現在
	男 3,585人
	女 3,764人
	計 7,349人
	世帯数 3,132戸

発行 平成20年1月25日 鹿児島県和泊町議会
 編集 議会報編集委員会
 〒891-9192 鹿児島県大島郡和泊町和泊10番地
 TEL (0997) 92 - 2569
 FAX (0997) 92 - 3176
 ホームページ <http://www.town.wadameri.lg.jp/>

議
会
だ
よ
り

○わどまり

- 町政のここが聞きたい -



般

質

問

平成19年（12月）第4回議会定例会

（この質問と答弁は質問した議員が簡潔にまとめたものです）

農業振興と学校給食について



赤山 俊彦 議員

質問 平成18年12月に「有機農業の推進に関する法律」が施行されたが、これに関し本町の考え方及び計画はどうなっているか。

有機農業に関する知識の普及および啓発活動について。

答弁 鹿児島県有機農業協会から講師を招き、講習会を開催した。今後とも、有機農業についてはこの法律を基に、特別栽培農産物、エコファーマーの推進に努めていく。

有機農業実践者及びこれを行おうとする者への支援策は。
答弁 これまで、土づくり事業として「環境にやさしい

農業総合推進事業」を実施している。事業種目としては、「堆肥」「ぼかし肥料」「木炭の施用」「深土破砕」へ事業費の半額助成を行い、環境にやさしい農業推進のため支援を行っている。



「良質な堆肥を供給・堆肥センター」

有機農業実践者と消費者の相互理解増進のための交流促進及びその他の施策について。

答弁 バレイシヨ出発式において、地元でとれた農産物を生産者と消費者間の相互理解を深めるため「旬を先取りするイベント」として交流会を計画している。

また平成18年から学校給食に地元産食材の活用を図るとともに、生活改善グループが栽培についての説明をしながら一緒に給食をとる取り組みも行っている。

今後は、全国の沖洲会等の組織を活用し消費者との交流を積極的に行い、有機農業の推進に努めていきたい。

質問 有機農業とは「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない」とされている。「環境保全型農業の推進に関する条例」が制定され、意識改革も含め多くの成果があがっているが、次の点はどうなっているか。

条例制定後、環境保全型農業での栽培農家の推移と主な栽培作物は何か。

答弁 主な栽培作物は、バレイシヨ、サトイモで、その推移は表のとおりとなっている。また、ニガウリでは全生産者13人がエコファーマーとなり出荷している。



「環境保全型農業でのバレイシヨ栽培」

	平成10年度		平成19年度	
	農家 (人)	面積 (ha)	農家 (人)	面積 (ha)
バレイシヨ	6	1.39	22	7.56
サトイモ	4	0.85	12	3.44

「環境保全型農業の推進に関する条例」を見直す考えはないか。

答弁 「有機農業の推進に関する法律」による県の推進計画を参考にしながら検討したい。

平成19年度農政の主要施策に、自給野菜の生産拡大がうたわれているが、本町における近年の野菜自給率の推移はどうなっているか。

答弁 明確な数字は把握できないが、日本人一人あたりの一年間の野菜消費量から換算し、和泊町では800tから900tが消費されていると推計される。生産については、400t程度の生産が見込まれている。

質問 農の「安心・安全」を図る上からも、地下水の保全と汚染防止にどのような対策を考えているか。

答弁 水質保全には、これまで以上に環境保全型農業の推進が必要であり、土づくり

を基本として良質堆肥や緑肥有機質肥料の施用など、減化学肥料、減農薬栽培を積極的に推進していく。

質問 学校給食は、児童生徒の発達段階において重要な位置を占めているが、そのあり方、指導方法等どのような取り組みがなされているか。

食育指導について。

答弁 学校栄養職員による食に関する指導や、教科内での学習、栽培実習を通して食の大切さの理解を深めている。

給食の安全について

答弁 施設、設備の衛生管理を徹底し、調理従事者衛生研修会を実施するなど、危機意識の高揚に努めている。

また、食材の納入についても数量、鮮度衛生面等を確認し、当日納入を行っている。

給食費の納入について。

答弁 完納となっている。

教育行政について タラソの運営について 地域活性化対策について



山下 幸秀 議員

質問 学校教育への取り組みについて。

中教審において、学力低下が指摘され、平成20年度から国語等基礎学力の時間を増やしていく教えであるが、本町における現状と学力向上への取り組みはどうなっているか。

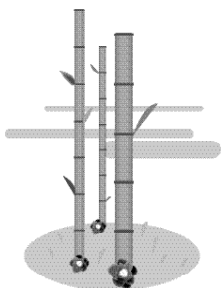
答弁 平成18年4月に実施された全国学力調査では、ほとんどが県や全国の平均を下回るという結果であった。この調査は、小6と中3の限られた教科の検査結果ではあるが、重く受け止め、今後落ち込みの見られる部分の重点指導、教師の授業力の向上、家庭学習

の充実に取り組んでいく。

食育と郷土学習はどうなっているか。

答弁 食育については、学校栄養職員による指導や、体験学習を通して食に関する指導を行っている。今後は、「食に関する年間計画」を作成し、さらに食育が充実したものになるよう指導していく。

郷土学習については、総合的な学習の時間を中心に、伝統芸能の伝承活動に取り組みとともに、汐干し学習や米作り等特色ある活動を行っている。今後とも郷土を愛し郷土を理解する生徒の育成に努める。



「意欲的に学習に取り組む生徒」

複式学級に対する今後の対策について。

答弁 現在町内に複式学級はないが、現在のままで児童数が推移すると、平成21年度には内城小学校で、平成22年度には大城小学校で複式学級になる見通しである。

今後の対策として、特認校制度の活用、住宅整備、出身者の呼びもとし運動等関係機関が連携し、児童数の確保に努める必要がある。

道徳教育といじめ対策について。

答弁 いじめについては、本町でも数件発生している。

いじめの早期発見、早期解決に向け、アンケートの実施や日常の観察での実態調査を行っている。最も重要な事は未然防止であり、心の教育の充実に努め、「道徳の時間」を中心に様々な機会を促して道徳教育を進めていく。

校内及び通学路の安全対策はどうか。

答弁 施設・遊具については、月一回の安全点検を実施している。不審者対策については、児童生徒や教職員を対象に研修会や訓練も行っている。



また、登下校時の安全対策については、保護者や学校職員による立哨指導を行うとともに、下校が遅くなる生徒の安全面を考慮して、通学路灯を設置している。

答弁 いじめについては、本町でも数件発生している。

「質問」 「タラソおきのえらぶ」の運営について。

利用状況、及びメンテナンスはどうか。

答弁 11月の利用者数は5282人、一日当たり187人となっている。メンテナンスについては、毎日の点検、月二回の専門業者による清掃と整備、年一回の大掛かりなメンテナンスを行っている。

健康増進のための取り組みはどうか。

答弁 平成18年度から、タラソおきのえらぶ独自の運動プログラムを実施し、平成19年度からは国民健康保険事業等も取り入れ、事業とリンクして健康教室を定期的に実施している。



健康増進にも効果

施設周辺の整備計画はどうか。

答弁 用地の確保に努め、遊歩道や花壇等の整備を行っていく。

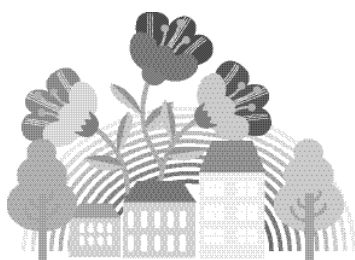
漁協や民間が行う養殖事業への協力についてどのように考えているか。

答弁 タラソ施設の取水を利用した養殖事業については、取水量や電気代等経費負担の問題もあるが、事業計画に基づきできるだけ協力していきたいと考えている。

「質問」 都市と地方の格差が社会問題となる中、国は地方

活性化策として人材育成事業の導入を強化していく方針だが、これを農業未経験者の就業対策に生かせないか。

答弁 農業関連人材育成事業は、旧パイオセンターを活用し、花き類の育種と野菜・さとうきび・花きの優良育苗の大量増殖を図るための育種・増殖技術補助員の雇用の創出を目的としているが、農業未経験者においても、技術修得への意欲と継続性が見込める場合は、受け入れ可能と考える。



「議会だより」は、和泊町議会のホームページでもご覧いただけます。

ホームページ [http // www.town.wadomari.lg.jp./](http://www.town.wadomari.lg.jp/)

可決された 議案など

平成19年第4回定例会は、12月11日から13までの3日間
にわたって開催され、上程さ
れた議案や決議等全てを議決
しました。

条 例

税外収入の督促、延滞金及
び滞納処分等に関する条例
税以外の分担金、使用料及
び手数料について、法に基づ
いて行う督促、延滞金及び滞
納処分についての条例を整備
するもの。

私債権の管理に関する条例
町の私債権について、法の
規定をふまえ債権回収のため
の手続き等についての条例を
整備するもの。

土地改良事業基金条例
国営土地改良事業の町負担
金に要する経費のための基金
を設置するもの。

職員の給与に関する条例等
の一部改正

一般職員の給与を、人事院
勧告に準じて改訂するとも
に、特勤勤務手当を廃止す
るための改正

報酬及び費用弁償に関する
条例の一部改正
一般廃棄物適正処理監視指導
員の報酬を、日額報酬に改め
るもの。

手数料条例の一部改正
介護保険法の改正により、
指定更新制度新設に伴う更新
申請手数料を制定するもの。

重度心身障害者医療費助成
条例の一部改正
障害者自立支援法の施行に
伴う改正。

和泊町農業情報センター施
設の設置及び管理に関する条
例の廃止
端末機器施設の老朽化、使
用状況の低下及びネットワー
クの保守困難による廃止。

予 算

平成19年度一般会計補正予
算第4号

歳入で、普通交付税1億2
000万円、町債3230万
円、沖永良部衛生管理組合負
担金過年度精算金1046万
円の増額、歳出で財政調整基
金積立金1億2900万円、
土地改良事業基金積立金18
00万円増額等の予算措置で、
予算の総額は61億2637万
円。

国民健康保険特別会計補正
予算第3号

保険給付費4192万8千
円、公債費13万6千円、諸支
出金15万円の増額及び、総務
費16万円、予備費727万円
減額の予算措置で、予算の総
額は11億4894万1千円。

介護保険特別会計補正予算
第3号

保険給付費3306万1千
円増額等の予算措置で、予算
の総額は7億1706万4千
円。

下水道事業特別会計補正予
算第2号

消費税及び地方消費税還付
金の増額に伴う一般管理費等
2681万3千円増額の予算
措置で、予算の総額は4億2
10万3千円。

農業集落排水事業特別会計
補正予算第2号

消費税及び地方消費税還付
金の増額に伴う一般管理費等
711万4千円増額の予算措
置で、予算の総額は2億35
06万5千円。

水道事業会計補正予算第1
号

給水収益の減収、人件費の
増額等の予算措置で、収益的
収入及び支出の予定額は2億
95万6千円。

指定管理

和泊町研修センターの指定
管理者の指定
NPO法人「島おこし21愛
和」を指定管理者に指定

決 議

奄美航路の鹿児島本港区北
ふ頭移転計画の推進に関する
決議

奄美群島民の利便性の向上
及び円滑な経済活動促進のた
め、奄美・沖縄航路の鹿児島
本港区北ふ頭移転の早期実現
を求める。



教育文化の拠点・研修センター



「第4回定例会」

決 議

奄美航路の鹿児島本港区 北ふ頭移転計画の推進に関する決議

奄美・沖縄航路は、本土・沖縄と奄美群島との交流による地域の活性化や群島民の交通・運輸の手段として、多大な効果をもたらしてきたことは周知のとおりである。

このような共通理解の下、鹿児島県においては、昭和57年の鹿児島港港湾計画及び平成5年の同計画改訂に基づき、鹿児島本港区の整備を進め、平成5年に北ふ頭、平成9年には南ふ頭が完成した。また、南ふ頭において整備を進めてきた種子島・屋久島航路の高速船用のターミナルと発着場が完成し、本年4月から共用されている。

奄美・沖縄航路は、昭和47年にそれまでの本港から新港区に移り、現在も2社が使用しているが、仮に利用している待合所の老朽化が著しく、また、利用者は貨物の積み下ろしで混在している中を通して乗降するなど苦慮しており、さらに交通面においても不便さを感じている。

現在、北ふ頭は、喜界航路と沖縄航路が使用しているが、高速船用の浮き桟橋の撤去により、奄美・沖縄航路2社の移転ができる環境が整っている。

新幹線の全面開通後は、鹿児島中央駅と鹿児島港とのアクセスが重要となるとともに、港が見える商店街である天文館から近距離にあるということから、奄美群島の観光産業の振興を図ることと併せ、奄美群島はバレイショ、花き、肉用牛等の一大産地として生産拡大が図られており、それらの安全輸送、鮮度の確保が重要課題となっている。物流の、安全な運搬拠点としての北ふ頭整備を行った上で、早期移転が望まれる。

よって、本議会は下記のことを強く求めるものである。

記

奄美群島民の利便性の向上、円滑な経済活動の促進のため、奄美・沖縄航路の鹿児島本港区北ふ頭移転を早期に実現すること。

追跡調査

あの質問 その後どうなった？

木柱平張施設の整備

切花の生産性と品質向上を図るため、木柱平張施設の整備は出来ないか。
(宮田裕雄 議員 18年3月議会)

答 弁

事業化を検討

農家の要望を勘案しながら、事業化へ向けて県と協議していく。
(町長)

その後

今年度から事業実施

経営対策事業により、平成19年度は約40,000㎡を整備し、平成20年度は約70,000㎡を計画している。



整備が進む木柱平張り施設



ボランティアによる植樹

自然林の保護

越山周辺の松等の自然林を保護する対策は。
(東 武和 議員 18年3月議会)

答 弁

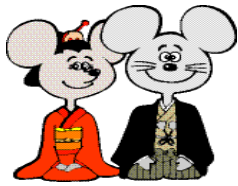
慎重に対応

松の幼木や多様な広葉樹も自生しており、回復が見込まれる。薬剤散布は、生態系を考慮し慎重に対応。
(町長)

その後

枯松の伐採と植栽を実施

枯木伐採と併せて、平成19年12月に松やクワディサーをボランティアで植栽した。



平成20年は 私の年 よろしくお願ひします



表紙の写真

タイムカプセルの開封。「20歳の私」へのメッセージに思わず笑みがこぼれます。どんな夢や希望が綴られていたのでしょうか。今年の成人式出席者は、男48人、女44人、計92人。 - 和泊中学校 -

編集後記

定例会毎に発行している「議会だより」も今回で98号となりますが、町民の皆様はどのように感じているのでしょうか。

行政と「一歩離れて二歩離れず」「町民の声を声とすべし」等の理念の下、私たちは行政のチェック機能としての機能を果たすべく議員14名がそれぞれ立場で議会活動を行っています。

3月の当初予算審査、9月の決算審査を中心に行財政の健全化を目指して審議していますが、その内容には依然として厳しいものがあります。今後とも、行政サービスを低下させないよう配慮しながら行政改革や歳出削減に努力していきたいと思っています。

ところで、平成20年4月には全国フラー都市交流連絡協議会が和泊町で開催されます。ゆりをシンボルとした「花の町わどまり」を町民全員参加で作上げ、和泊町の自然と人情のすばらしさを全国にPRしていけたらと考えています。

(文責 山下 幸秀)

- | | |
|---------|-------|
| 議長 | 前田 力 |
| 議会報編集委員 | |
| 委員 長 | 東 武和 |
| 副委員長 | 谷山健一郎 |
| 委員 | 山下 幸秀 |
| 同 | 赤山 俊彦 |